

ファーン川流域有機農業ネットワークの活動とミカン栽培

9月14日 午前講義

ファーン川流域の大規模ミカン園による農薬被害と有機農業に関する取り組みに関する講義を受ける。またこの講義の後、午後は実際にミカン園を歩き「開発の現状」に関する講義も行われた。

講師：木村茂、ナロン・プロマー、リンクスタッフ

キーワード：安全な食生活、持続可能な農業、流域単位のネットワーク、共生、需要と供給のバランス

この日は、メーアイ郡在住で有機農業農家であるナロン・プロムマー氏（ファーン川流域有機農業ネットワーク代表）の情報提供を得ながら、木村茂氏の解説のもと「ファーン健康フォーラム」において有機農業およびファーン郡にあるミカン園についてお話を聞かせていただいた。

ファーン健康フォーラムは有機栽培によって「作って安心、食べて安心、自然も安心」な野菜・果物等を扱う市場で、市自治体、ファーン川流域有機農業ネットワークをはじめとする地元住民によって運営されている。毎週金曜日の朝 5~9 時まで開かれるこの市場には、毎回 10 世帯ほどの農家が収穫物を売りにやってくる。この大きな特徴の一つに、何をいくらで作るかは両者の話し合いに基づいていたり、農業体験ツアーをおこなったりと、生産者グループと消費者グループとの相互の交流が非常に盛んであることが挙げられる。また、行政との関わりも持っており、チェンマイ県から予算を取ってさまざまな活動に役立てている。さらに、「7年後までにチェンマイ県を有機農業のモデル県にする」というファーン川流域有機農業ネットワークの目標を達成するべく、農家に対して研修会を開き、収入不安などから有機農業に踏み切れない人たちに有機農業を広める活動をおこなっている。ナロン氏は有機農業をおこなうにあたり、ファーン川の「流域」という枠組みを重視していることを力説した。行政区ももちろん頭に入れなければならないが、農業は自然とともにあるものだから、自然的なまとまりを大切にしたいということであった。

そもそもナロン氏が有機農業を始めるようになったきっかけは、ファーン郡一帯に広く分布するミカン園の存在である。1997 年から急速に拡大したミカン園は、今から 5 年前までにファーン川流域の約五分の一を覆うまでになっていた。しかし、ミカン園が原因となって国有林等の森林が破壊され、農民の水路は奪われ、さらに農薬によって地域住民の健康が害されるという問題が起きるようになった。特に深刻なのは水質汚染であり、汚染地域では水ビジネスが流行しているほどである。これらの問題を解決するためさまざまな手段が取られたが、行政やミカン栽培をおこなう企業は地域住民の側に立ってくれず、またミカン栽培をめぐる殺傷事件等が起きたこともあり、ナロン氏たち一部の農家はより柔軟で合理的な解決手段として有機農業を選んだというわけである。

急激に拡大していたミカン栽培だが、今年は肥料の高騰、ミカン市場価格の下落、ミカンの木の病気などによって大打撃を受け、あちこちで放棄畑が増えている。このような状況下で、ファーン川流域有機農業ネットワークが今後ミカン園とどう折り合いをつけていくのか、非常に注目される。

(文責：内山明子)